必ずお読みください
定寸サイズ用

Wallzet 可動間仕切り収納 [ウォールゼット ムーブ4]

MOVE4

施工・取扱説明書　施工業者様・お施主様　共通版

施工業者様へ

施工前の製品確認実施

品質管理には万全を期していますが、万一製品に不都合な点がありましたら、販売店様または弊社販売員まですぐにご連絡ください。
施工前の製品に限り販売店様を通じて良品交換させていただきます。施工後の交換・補修はいたしかねますので、必ず施工前にご確認ください。

ご注意

施工前に必ずこの「施工・取扱説明書」をご一読いただきますようお願いいたします。
間違った施工・取扱方法を行ないますと、製品の品質劣化や損傷につながる可能性があります。
本書に則さない施工・取扱方法を行なった場合については、当社での保証はいたしかねますのでご注意ください。

安全のために施工は2人以上で行なってください。
施工完了後に本書を必ずお施主様へお渡しください。

お施主様へ

ボックスユニット・パーツ類の取扱説明について

□ お施主様はこの色の部分をお読みください。

本文中の薄い黄色の下地カラーの部分が施工業者様用の「施工説明書」とお施主様用の「取扱説明書」の
共通部分となっています。設置変更・製品の取り扱いに関してこの部分をご覧ください。
また、裏面の日常使用時の取扱説明も併せてご覧ください。

NANKAI PLYWOOD

本説明書について

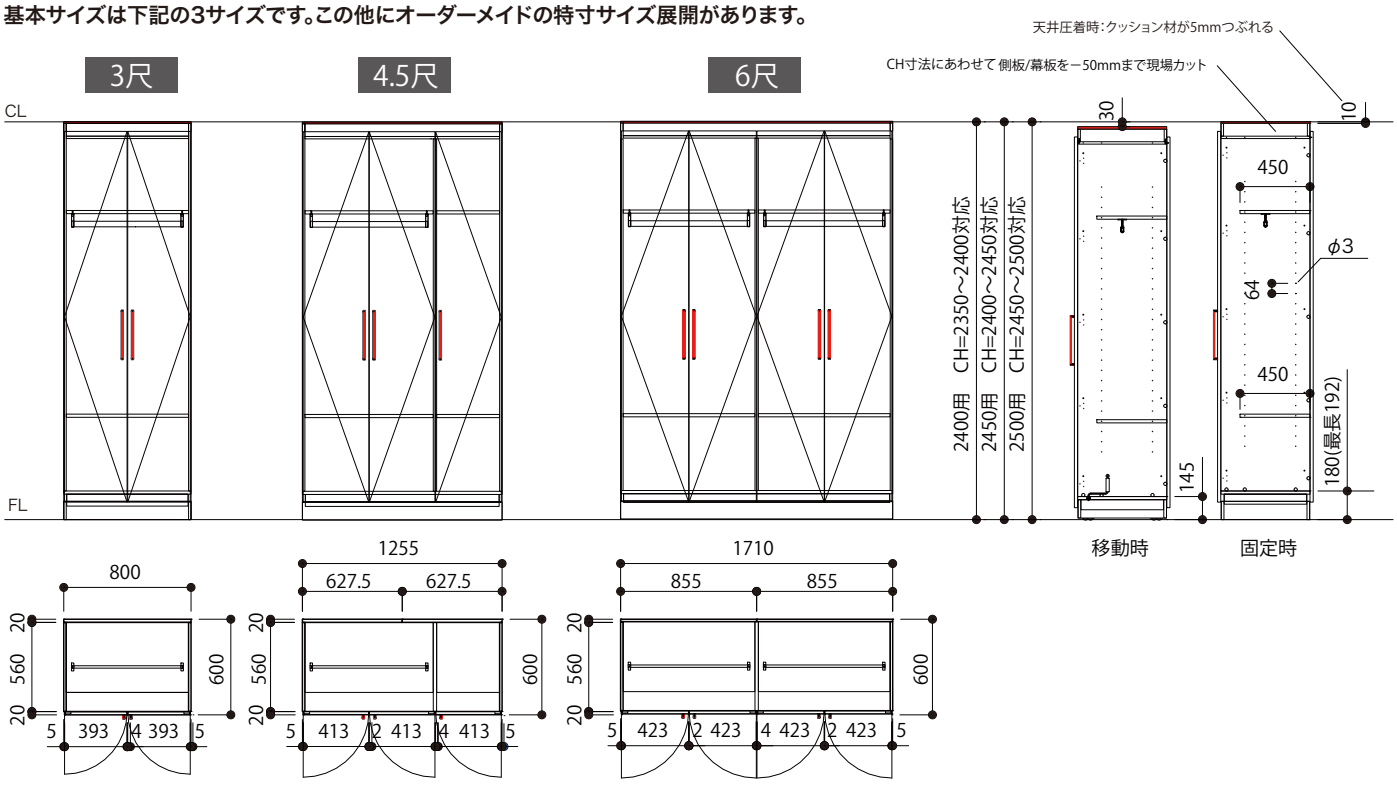
この説明書の内容は基本的に「定寸サイズ」のムーブ4で解説しています。
オーダーメイドの「特寸サイズ」に関しても基本のルールと手順は同じです。

ボックスセットのサイズバリエーション

定寸サイズ

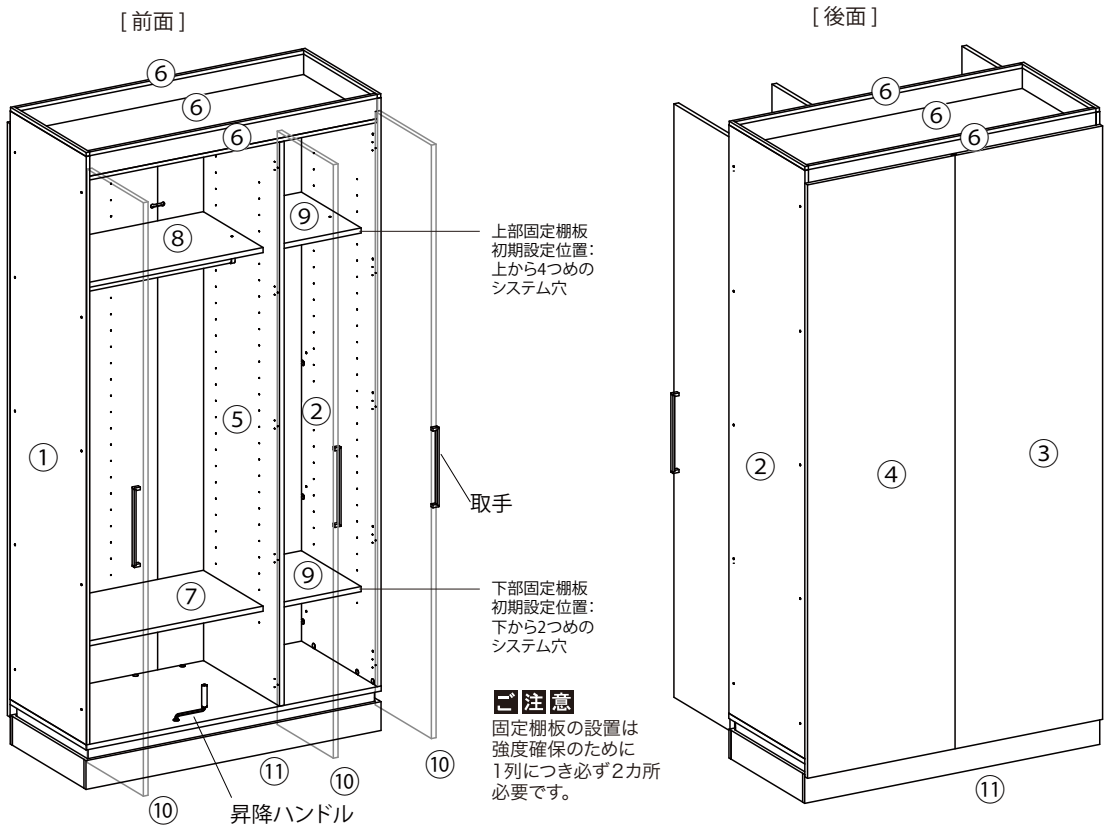
単位：mm

基本サイズは下記の3サイズです。この他にオーダーメイドの特寸サイズ展開があります。



パーツ構成

下図の各パーツ名称をご理解のうえ、本文の説明と照らし合わせて施工を行なってください。



ご注意
固定棚板の設置は
強度確保のために
1列につき必ず2カ所
必要です。

①側板左
②側板右
③背板左
④背板右
⑤仕切板
⑥天板・幕板セット
⑦固定棚板左
⑧固定棚板左パイプ付
⑨固定棚板右
⑩扉
⑪台輪ユニット

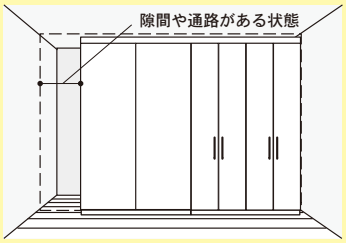
図は4.5尺です

ボックスセットの設置方法と注意事項

設置方法の種類

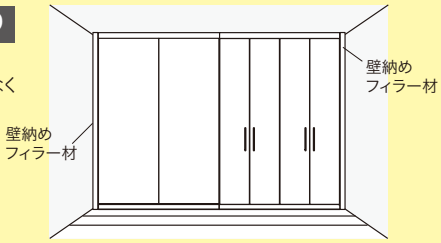
家具置き

ボックスセットだけを
タンスなどの家具のよう
に設置します。
壁納めフィラー材がない
場合は室内の移動だけと
なります。

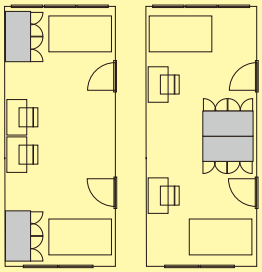


完全間仕切り

ボックスセットと
天井・壁の間を隙間なく
フィラー材で納めて
設置します。



オプション品の壁納めフィラー材があれば、どちらの設置方法も可能です。

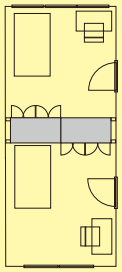


部屋の中を自由に移動・模様替え

**「完全間仕切り」から
「家具置き」へ**

**「家具置き」から
「完全間仕切り」へ**

壁納めフィラー材の購入が必要です。
弊社販売員までご相談ください。



ひとつの部屋を
ふたつにして活用

ご注意 いずれの場合もボックスセットを組立後、設置した部屋から出すことは困難になります。

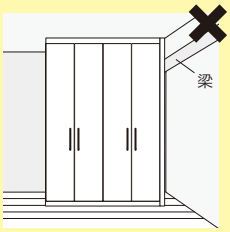
設置場所の確認と注意事項

床

■畳・カーペット・クッションフロア・床暖房・遮音床の上は設置・移動ができません。
■キズやへこみに強い高耐傷性の床材をご使用ください。
■直張床の場合、設置予定位置に根太補強することをお勧めします。

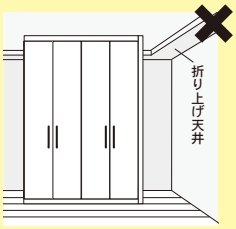
壁・天井

■圧着固定するために、天井にも荷重がかかります。石膏ボードを下地に使い強度を確保してください。
■定寸サイズでは、天井に梁がある場合や天井がフラットでない場合は、完全に間仕切って使用できない場合があります（下図参照）。

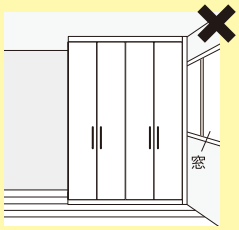


梁が間仕切り位置に対して
直行している場合

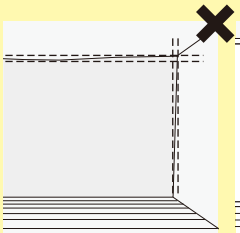
特寸の場合は例外です。



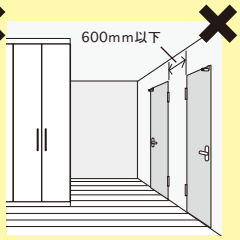
天井の形状が床面に平行
かつフラットでない場合



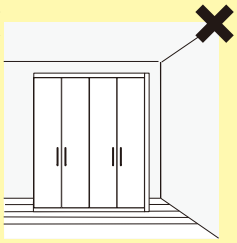
間仕切り位置に窓や建具など
開口がある場合



天井・壁の不陸や傾きが
ある場合
（躯体施工時に水平・垂直
をだす）



間仕切り位置の壁幅が
600mm以下の場合
（ボックスセットの
奥行が600mmのため）

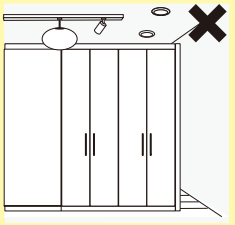


天井に固定できない場合

高さの特寸サイズを所定
の位置以外で使用する
場合など。

電気設備

■照明器具・火災報知器等は、ボックスセット設置位置を考慮して設置してください。
■扉の開閉スペースや、ボックスセット移動経路上に、移動の妨げになるような照明は設置しないようあらかじめご注意ください。
■白熱灯・ハロゲンランプ等、熱を発する照明をボックスセット近くに配置しないようご注意ください。火災の原因となる可能性があります。



扉の開閉・進路の妨げになる、
また発熱するおそれのある照明が
近くにある。

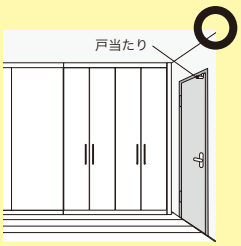
空調設備

■エアコン・換気システム等の空調設備と、ボックスセットの設置位置が重ならないように配慮し設計してください。
■エアコンの吹き出し口近くにボックスセットを配置すると、劣化や故障の原因となる可能性があります。

その他

■カーテンボックスの位置や建具の開き方を事前に確認し、ボックスセットの扉とぶつからないように配慮し設計してください。
■ドア等の建具がボックスセットに直接接触する場合は、破損防止のために、必ず戸当たりを取り付けてください。
■圧着固定するため、壁にも荷重がかかります。石膏ボードを下地に使い強度を確保してください。
■壁納めフィラー材と、ドアなどの建具・窓などの開口部が重ならないように配慮し設計してください。

ボックスセットの扉がカーテンボ
ックスにぶつかり開かない。



室内に入る扉を開けるとボックス
セットに当たるため、戸当たりを
取り付ける。

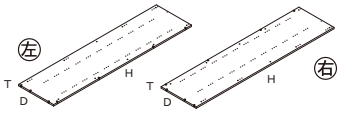
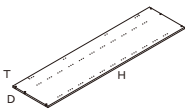
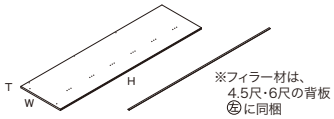
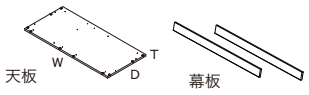
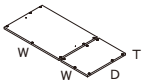
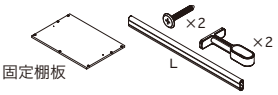
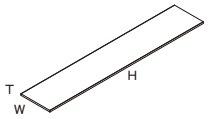
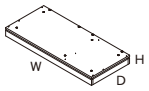
施工に必要な工具類

■ 木工用ボンド
（酢酸ビニール系接着剤）
■プラスチックハンマー
■プラスドライバー
■スケール ■カッター
■ノコギリ ■両面テープ
■φ5木工きり ■φ6木工きり(オプションのハンガーパイプ設置時使用)

ご注意
ジョイント金具には電動式ドライバーを
絶対に使用しないでください。
ネジ山をつぶす可能性があります。

ボックスセット部材表

梱包内容・名称・入数を確認してください。 ご注意 入数はボックスセット・1セットに対する数を表記しています。

	名称	寸法	入数 3尺	入数 4.5尺	入数 6尺
ボックスセット本体	側板 片面ダボ穴加工 	D= 560 H= 2210・2260・2310 T= 15	㊧1 ㊨1	㊧1 ㊨1	㊧1 ㊨1
	仕切板 両面ダボ穴加工 	D= 559 H= 2114・2164・2214 T= 20	0	1	1
	背板 	W= 3尺: 800 4.5尺:㊧627.5 ㊨627.5 6尺: ㊧855 ㊨855 H= 2230・2280・2330 T= 20	1	㊧1 ㊨1	㊧1 ㊨1
	天板・ 幕板セット 	天板 W= 3尺: 768 4.5尺: 1223 6尺: 1678 D= 559 T= 15 幕板 W= 3尺: 768 4.5尺: 1223 6尺: 1678 D= 80 T= 15	1	1	1
	棚板 	W= 3尺: 768 4.5尺:㊧806 ㊨395 6尺: 828 D= 450 T= 20	1	㊧1 ㊨2	2
	パイプ付 棚板 	パイプ ※棚板の寸法は上記を参照ください。 L= 3尺: 698 4.5尺: 736 6尺: 758	1	㊧1	2
	扉(左右共通) ※扉は施工性向上のために 右用・左用をなくし パーツを共通化しています。 	W= 3尺: 393 4.5尺: 413 6尺: 423 H= 2230・2280・2330 T= 20	2	3	4
	台輪ユニット 	W= 3尺: 800 4.5尺: 1255 6尺: 1710 D= 560 H= 145	1	1	1

※図は4.5尺タイプの部材を表示しています。

ボックスセット金具表　金具箱在中部品

梱包内容・名称・入数を確認してください。 ご注意 入数はボックスセット・1セットに対する数を表記しています。

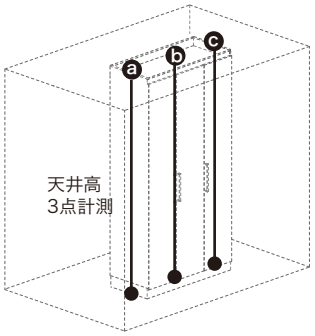
	名称	入数 3尺	入数 4.5尺	入数 6尺
ボックスセット本体用金具	ジョイント 金具シャフト	37	58	60
	ジョイント 金具キャップ	37	58	60
	側板用 カバーキャップ	20	20	20
	連結ボルト キャップ付 M3×26	5	5	5
	連結ナット キャップ付 M3×12	5	5	5
	戸当たりシール	4	6	8
	背板連結具セット ×2	0	1	1
	昇降ハンドルセット	1	1	1
扉用金具	スライド丁番	10	15	20
	丁番座金	10	15	20
	丁番ダンパー	4	6	8
	丁番ビス L=16	20	30	40
	丁番座金ビス L=13.5	30	45	60
	扉取手セット ×2	2	3	4
	施工業者様・お施主様共通版「施工・取扱説明書」	1		

ボックスセットの組立方法

1 側板・幕板のカット

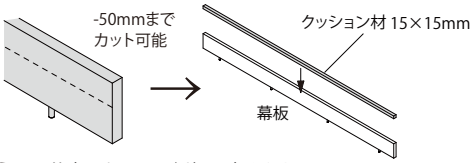
●設置する場所の天井高をムーブの本体幅に合わせ3点計測する。
●3点の平均値をだし、ムーブ本体高との差異分をカットする。

例
2500mm（ムーブ4高さ） − 2484mm（ⓐⓑⓒ 平均値）＝ 16mm（カット寸法）

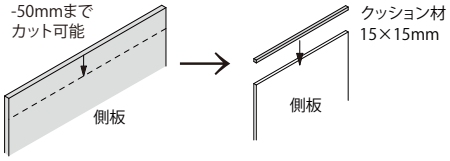


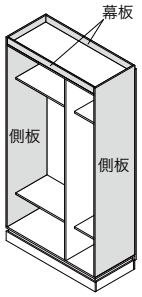
ご注意 ■最大カット寸法は50mmまで。それ以上はカット不可です。
■特寸サイズはカット不要です。

❶ 天井高に合わせて、幕板の木ダボのない側の高さをカットする。
カットした面にクッション材を両面テープで貼付ける。



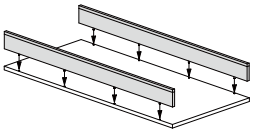
❷ 天井高にあわせて側板の高さをカットする。
天井側にクッション材を両面テープで貼付ける。





2 天板と幕板の固定

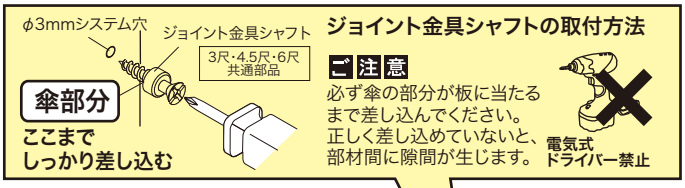
●天板に幕板を木工用ボンド（現地調達）で接着・固定する。



3 金具類の取付方法

●下図の取付位置を参照し、側板・背板・台輪・天板にジョイント金具シャフトを取り付ける。

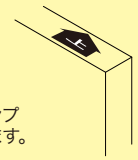
ご注意
金具・部材の取り付けは必ずボックスの組立前に行なってください。



ジョイント金具シャフトの取付方法

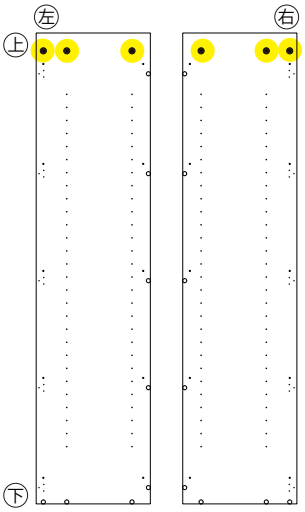
ご注意
必ず傘の部分が板に当たるまで差し込んでください。
正しく差し込めていないと、部材間に隙間が生じます。

ご注意
板の上下の見分け方は、木口上面に「上」とスタンプ表示しています。

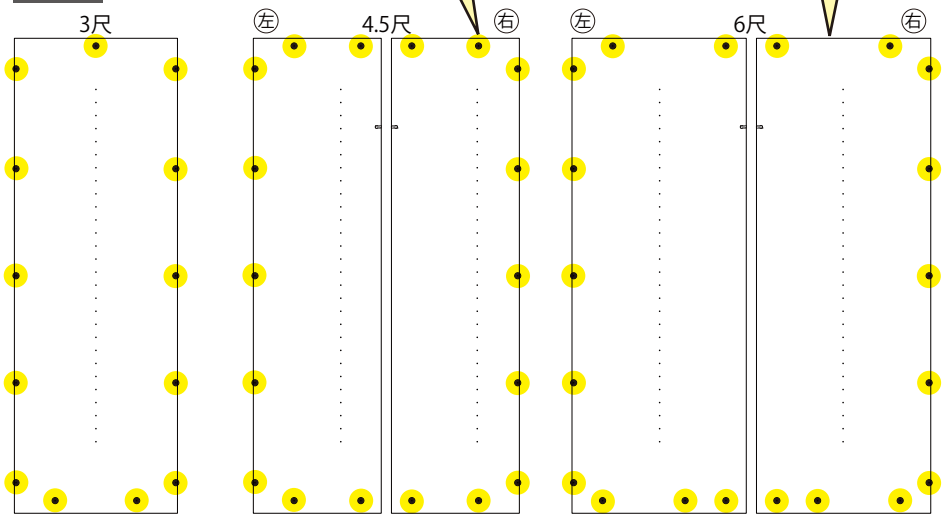


●＝ジョイント金具シャフト取付位置

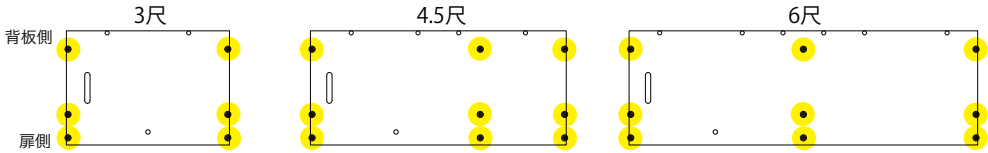
側板 天板との接合部に取り付け



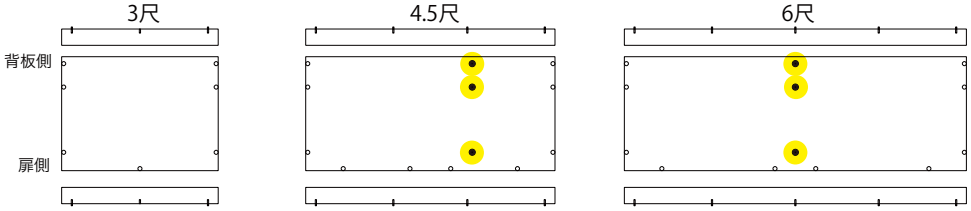
背板 天板・側板・台輪との接合部に取り付け

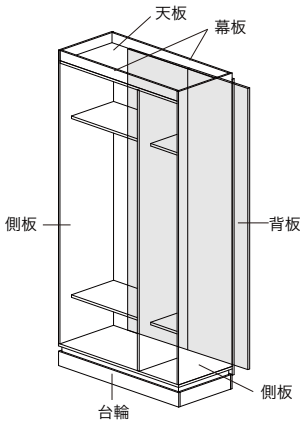


台輪 側板・仕切板との接合部に取り付け



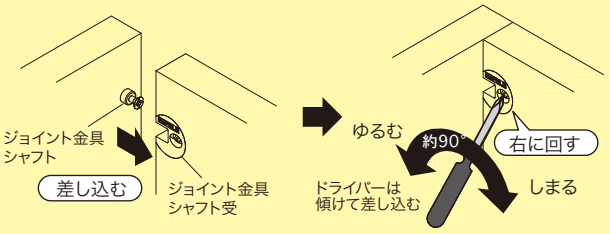
天板/幕板 天板内面の仕切板との接合部に取り付け

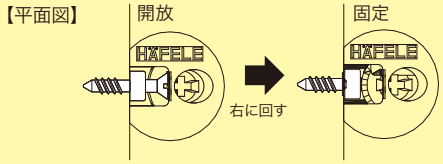




ジョイント金具の取付方法

組立作業に入る前にジョイント金具の基本的な取付方法をご理解ください。





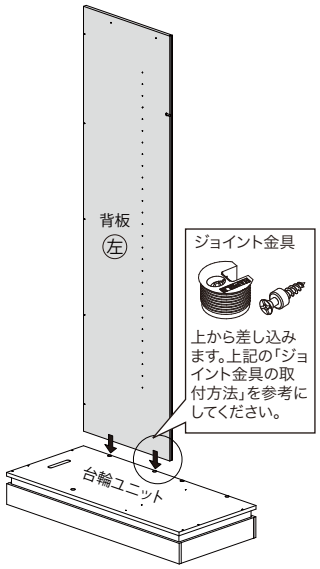
P4 3 で各部材に取り付けたジョイント金具シャフトをジョイント金具受(出荷時取り付け済み)に差し込み、ドライバーで右に回すと固定されます。

4 背板・側板・台輪の組立方法

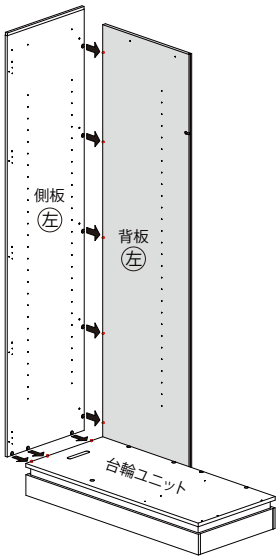
ご注意 組立前に部材の上下をご確認ください。各板の切口に「上」と表記しています。

1 背板下部のシャフトを台輪のジョイント金具受に上から差し込む。

ご注意
説明図は4.5尺定寸サイズです。
3尺以下の場合は背板は1枚です。

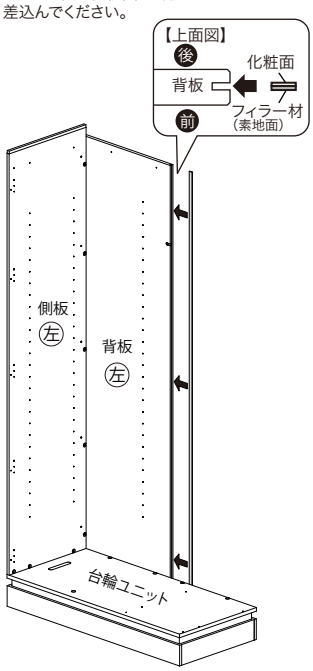


2 側板をジョイント金具で、背板と台輪ユニットに取り付ける。



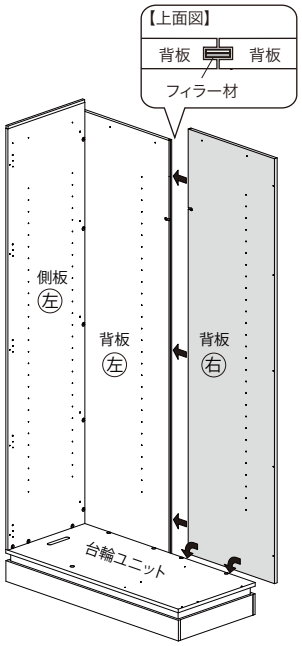
3 接着剤をつけてフィラー材を溝にはめ込む。

ご注意
フィラー材は化粧面を外側にして差込んでください。



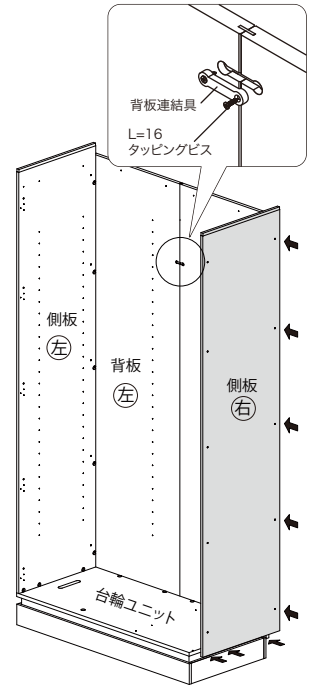
4 同様に反対側も背板～側板の順で取り付ける。

ご注意
フィラー材は接着剤で固定後、固まるまでは養生テープ止めが必要です。



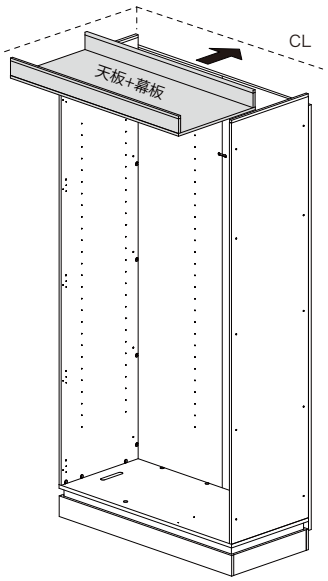
5 天板・仕切り板の取付方法

1 プラスチックハンマーを使い背板に背板連結具を打ち込み、ビスで固定する。



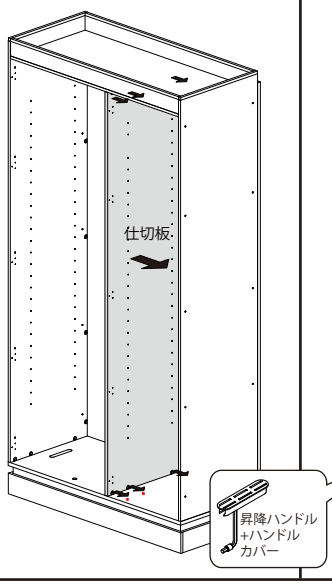
2 天板+幕板を、側板と背板にジョイント金具で取り付ける。

ご注意
●前面からゆっくりと差込み固定してください。
●天井をキズつけないようご注意ください。



3 仕切板を天板と台輪ユニットにジョイント金具で取り付ける。

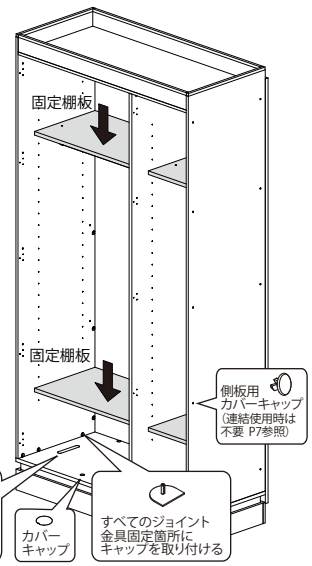
ご注意
●仕切板の上下にご注意ください。
●仕切板は必ず左側から差し込んでください。



4 任意の高さにジョイント金具シャフトを付け、固定棚板を取り付ける。

ご注意
●安全のため棚板は上から取り付けてください。
●固定棚板・ハンガーパイプの詳しい取付方法はP10をご参照ください。

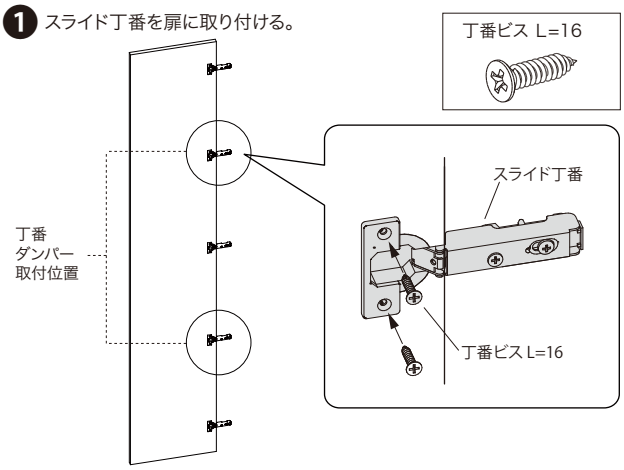
5 最後に下記の昇降ハンドル等の付属品を取り付ける。



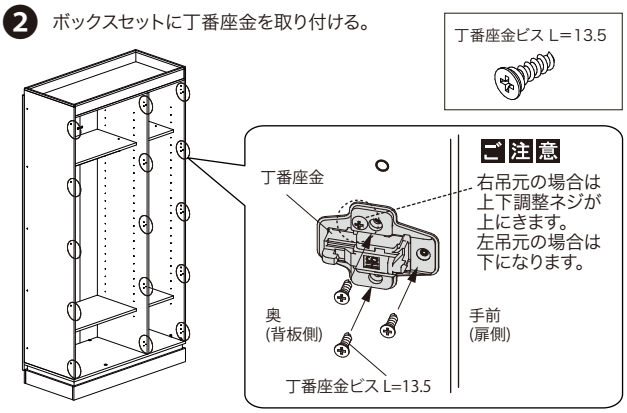
6 扉の取付方法

ご注意 扉の取り付けは、最終設置位置まで移動して行なってください。
移動・固定方法は次のページをご参照ください。

❶ スライド丁番を扉に取り付ける。



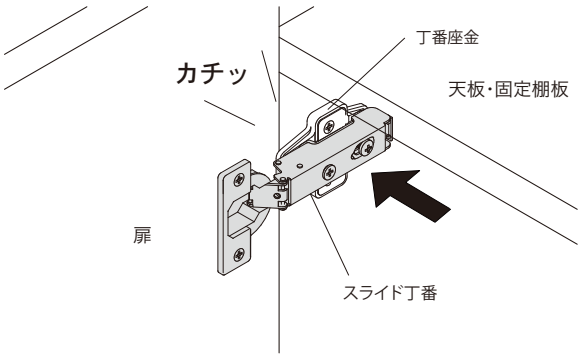
❷ ボックスセットに丁番座金を取り付ける。



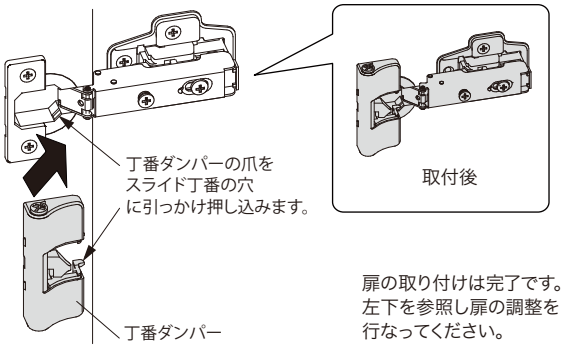
ご注意
右吊元の場合は
上下調整ネジが
上にきます。
左吊元の場合は
下になります。

ご注意 丁番座金はビス穴がある方が手前(扉側)になります。
逆に取り付けると扉をつけることができません。

❸ スライド丁番を丁番座金に取り付ける。



❹ ❶で指定してる位置のスライド丁番に、丁番ダンパーを取り付ける。
(扉1枚当たり2カ所)



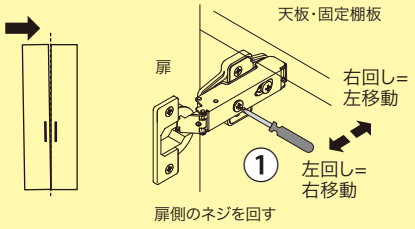
扉の取り付けは完了です。
左下を参照し扉の調整を
行なってください。

7 扉の調整方法

すべての扉を取り付けてから、開閉がスムーズに行なえるよう水平垂直をだす。

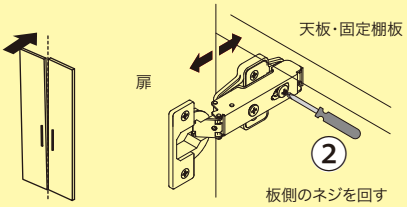
扉の左右の位置を調節

①のネジを右に回すと扉が正面から見て左に移動し、左に回すと右に移動します。



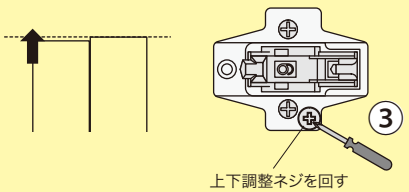
扉とボックスの隙間を調節

②のネジをゆるめ扉を前後に動かして調節し、適正な位置で締め直して固定。



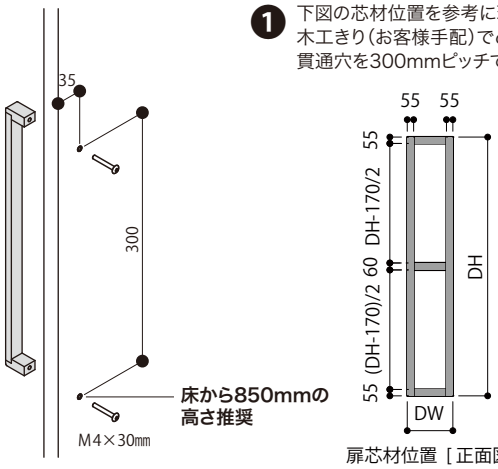
扉の上下を調節

丁番座金にある③のネジをゆるめ扉を上下に動かして調節し適正な位置で締め直して固定する。



8 取手の取付方法

❶ 下図の芯材位置を参考に現場加工。
木工きり(お客様手配)でφ5mmの
貫通穴を300mmピッチで開ける。



扉芯材位置［正面図］

ご注意
必ず芯材のある位置に取手を
取り付けてください。

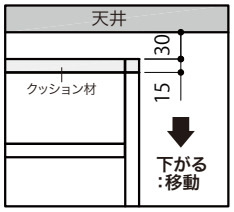
❷ M4×30ネジ(同梱品)で固定。

完成 建て付けに不備がないか、もう一度製品全体に目を通してください。

**「施工・取扱説明書」を
お施主様に必ずお渡しください。**

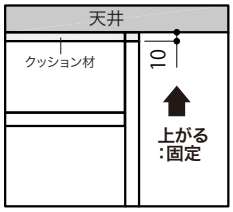
ボックスセットの移動・固定方法

［ 移動時 ］

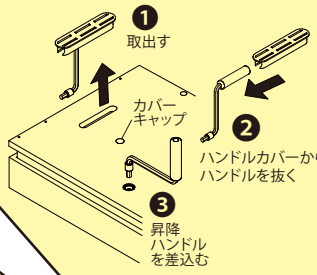


移動時は天井との間に約30mm
のクリアランスができます。

［ 固定時 ］



固定時はクッション材が
天井にあたり、5mm程つぶれて
10mmになるくらいが適正な固定位置です。

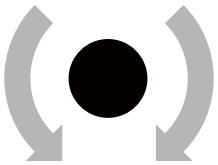


次の手順で「移動」「固定」を行なってください。

- 台輪ユニットにセットされているハンドルカバーを取り出す。
- ハンドルカバーから昇降ハンドルを取り出す。
- カバーキャップをはずし、昇降ハンドルを台輪ユニットに差し込む。
- 昇降ハンドルを左に回すとボックスセットが下がり移動可能な状態になる。
右に回すとボックスが上がり天井と床に密着し固定状態になる。

「移動」「固定」のハンドル操作方法

左まわし
移動
キャスターを下げる



右まわし
固定
キャスターを上げる

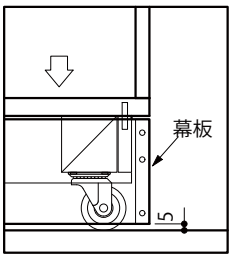
ご注意

左まわし 回転音が低くガリガリと変わりはじめたら
それ以上は回さないでください。

右まわし ハンドル下の台輪部に赤い注意シールが見えたら
それ以上は回さないでください。

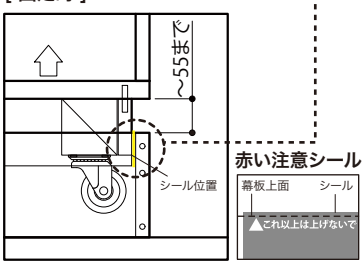
回し過ぎると器具の破損につながる可能性があります。

［ 移動時 ］



キャスターが床面に接地し、
移動できるようになります。
床面を傷つけないよう幕板が
フロアから5mm程浮いた状態で
移動させてください。

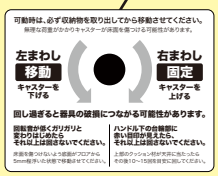
［ 固定時 ］



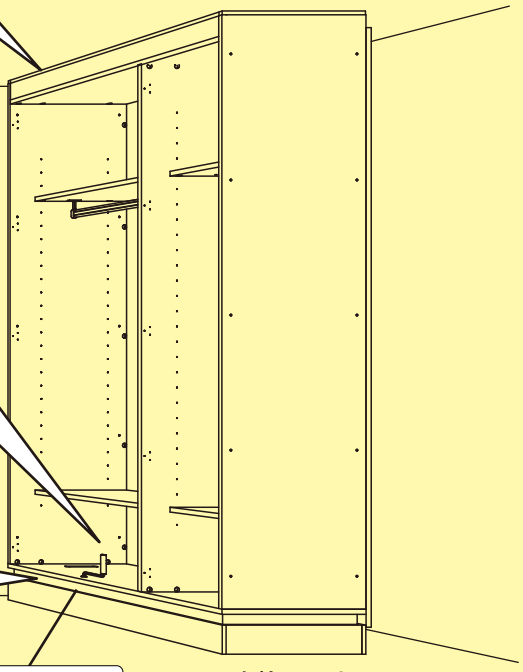
キャスターが床面から浮いて
固定されます。

ご注意

幕板は上げすぎないように注意してください。



詳しくは
ハンドル差込口周りに貼られた
シールをガイドにして
操作を行なってください。

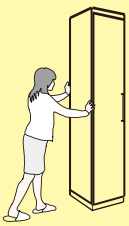


台輪ユニット

ご注意

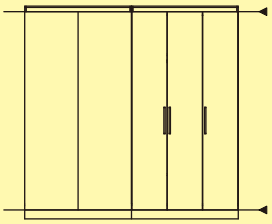
ボックスの移動・昇降時には必ず内部の収納物を外に出して
操作を行なってください。
ボックス本体や天井・床等の躯体部が傷ついたり破損する可能性があります。
充分にご注意ください。

昇降ハンドルの操作時、上げ過ぎ・下げ過ぎに注意してください。
無理な力を加えると昇降ユニットが破損する可能性があります。



移動時は充分に
安全を確認する。

特寸サイズで幅400～600mmのムーブには
台輪部にキャスターが装備されていません。
底面にフェルトが貼られていて
これを滑らせての移動となるため、
移動時に本体転倒等によるケガのおそれがあります。
充分にご注意ください。



ご注意

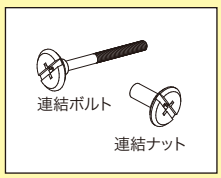
連結する場合は、各ボックスの高さを昇降ハンドルを使って微調整し、同じ高さにそろえてから連結してください。

ご注意

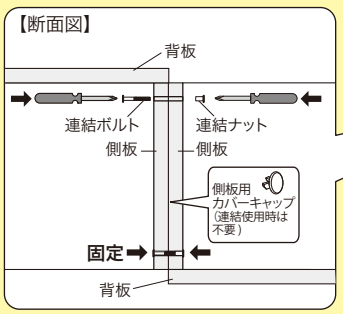
背板面と扉面を向けた状態で連結するため必ず2人で施工を行なってください。
連結したままでの移動はお避けください。

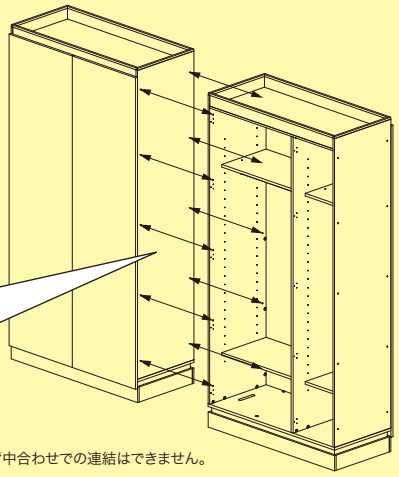
ボックスユニットの連結方法

ボックスを並列して設置する場合や、「完全間仕切り」設置の場合は、ボックスユニットを連結する。連結ボルトと連結ナットを両側からプラスドライバーで固定。ボルトとナットは両側から右に回して締め、正しい位置にセットする。



	連結穴
3尺	10カ所
4.5尺	
6尺	



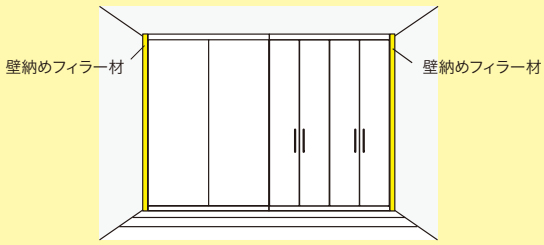


※背中合わせでの連結はできません。

完全間仕切り設置　壁納めフィラー材・ジョイントパーツの取付方法

ムーブ4を「完全間仕切り」で設置して、ひとつの部屋を2つに分けて使用する場合は、以下の手順で取り付けてください。

完全間仕切り



ボックスセットと天井・壁の間を隙間なくフィラー材で納めて設置

壁納めフィラー材／フィラー材ジョイントパーツ　部材表

梱包内容・名称・入数を確認してください。

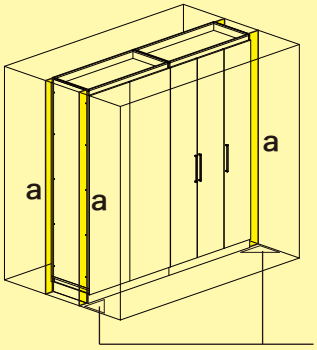
名称・寸法・入数				
壁納めフィラー材	①フィラー受×2 22×15×2500	②フィラー材×2 66×3×2650	③フィラー見切材×2 17×14×2650	L=65ビス・ビスキャップセット ×10セット
フィラー材ジョイントパーツ	④ジョイントパーツ×1 35×300×2600	クッション材 ×2		L=35ドリルビス・ビスキャップセット ×5セット

壁納めフィラー材の取付前作業

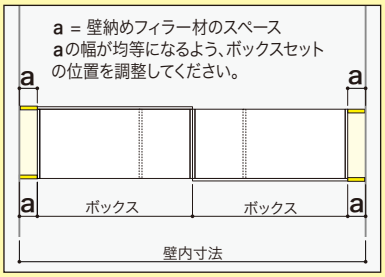
ボックスセットを設置したい場所に移動し、壁面に対して直角を取り、部屋の中心から均等の幅に置きます。

ご注意　左右均等に割り付けを行なわないと、納まりが悪くなり、隙間等の原因となります。

※移動方法はP7の **ボックスセットの移動・固定方法** をご参照ください。



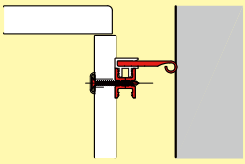
【上面図】



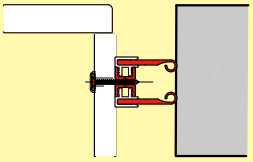
aを計測してください。
a=30mm未満の場合は対応不可です。
壁納めフィラー材の対応可能幅は a=30~70mm。
a=71mmを超える場合はジョイントパーツ（下図 ③）を追加します。
以下の取付パターンを参考に躯体条件に合った施工を行なってください。

壁納めフィラー材の取付パターン

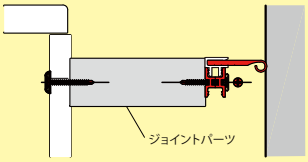
① 片面使い



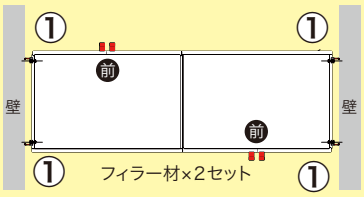
② 両面使い

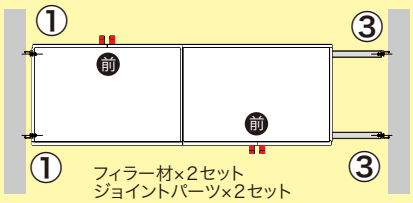


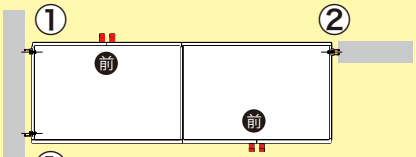
③ ジョイントパーツ追加

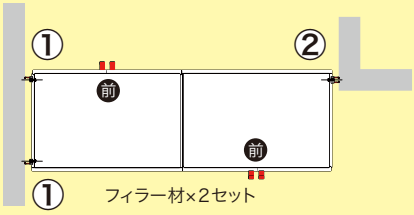


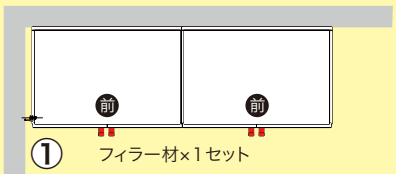
左記の3パターンを組み合わせ様々な躯体条件や設置方法に対応可能です。

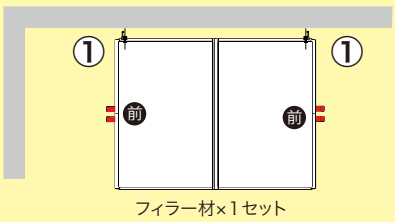


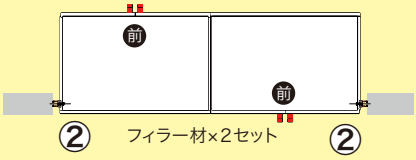


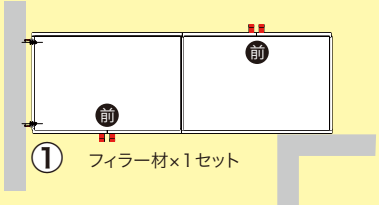








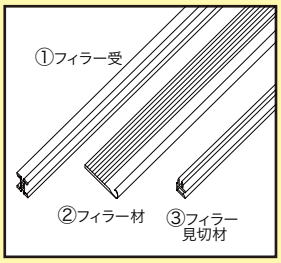




1 壁納めフィラー材の取付方法

ご注意 フィラー材の取り付けは必ず2人で行なってください。

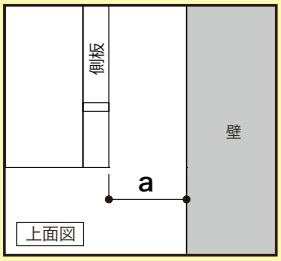
❶ フィラー材を設置する場所の天井高さに合わせて各部材の長さをカットする。



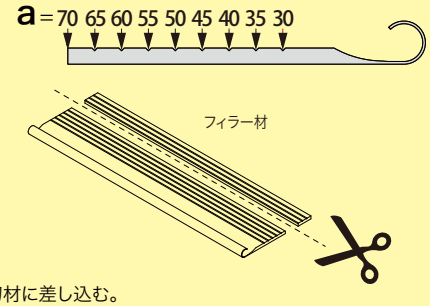
①フィラー受：CH-100mmでカット
②フィラー材：CH-3mmでカット
③フィラー見切材：CH-3mmでカット

CH=床から天井までの高さ

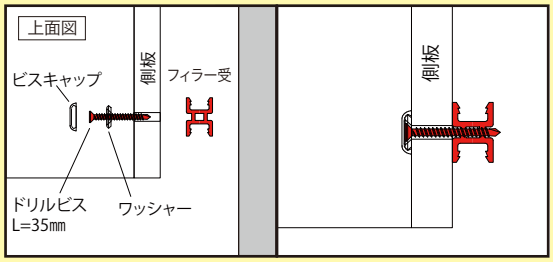
❷ フィラー材を設置する場所のボックスセット側板と壁との間の寸法aを測定。



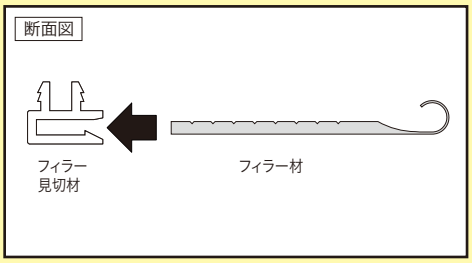
測定した a の寸法にあわせてフィラー材の幅をカット。裏面の5mmピッチのV溝にそってカッターかハサミでカットする。

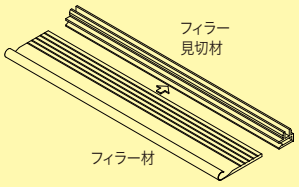


❸ フィラー受をボックスセット側板内側の貫通システム穴からビスとワッシャーで固定。(貫通システム穴：高さ方向5カ所を固定)

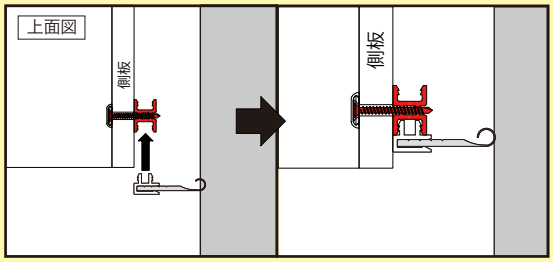


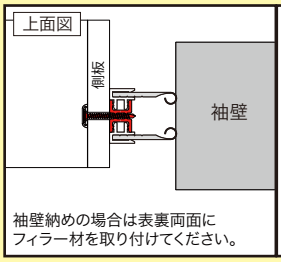
❹ フィラー材をフィラー見切材に差し込む。



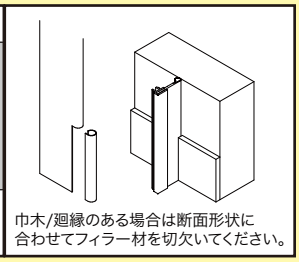


❺ フィラー材を側板に取り付けたフィラー受に正面から差し込み完成。





袖壁納めの場合は表裏両面にフィラー材を取り付けてください。

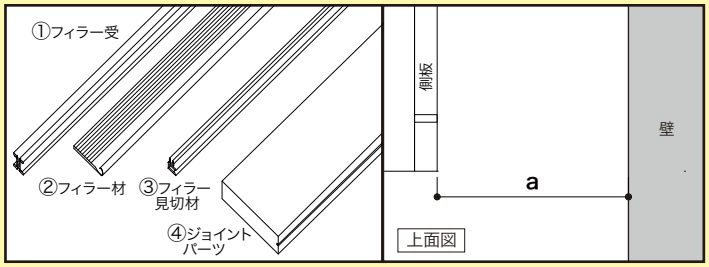


巾木/廻縁のある場合は断面形状に合わせてフィラー材を切欠いてください。

ご注意 壁納めフィラー材およびジョイントパーツを付けたままでの移動はお避けください。

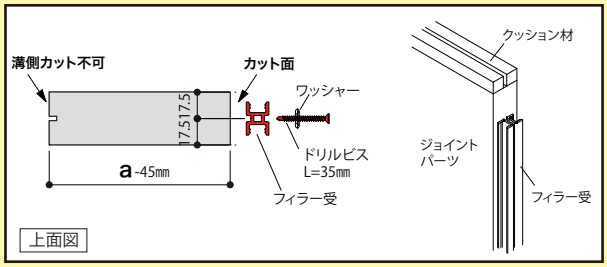
2 ジョイントパーツの取付方法

❶ フィラー材を設置する場所の天井高さに合わせて各部材の長さをカットする。
フィラー材を設置する場所の側板と壁との間の寸法aを測定する。



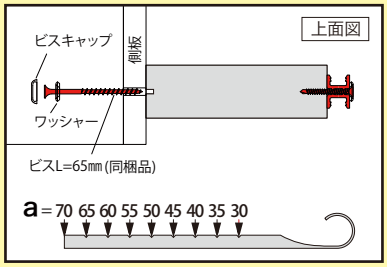
①フィラー受：CH-100㎜でカット　③フィラー見切材：CH-3㎜でカット
②フィラー材：CH-3㎜でカット　④ジョイントパーツ：CH-10㎜でカット
CH=床から天井までの高さ

❷ 測定したa寸法にあわせてジョイントパーツの幅をa-45㎜でカットする。(鋸溝のない側)



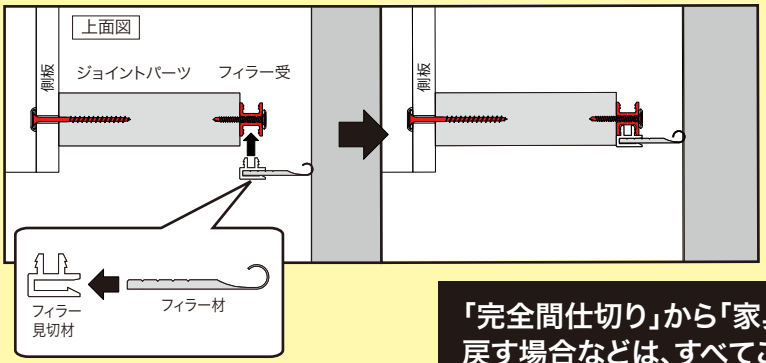
ジョイントパーツの天井側にクッション材を貼りつける。
フィラー受をジョイントパーツに付属のビスとワッシャーで固定。
(高さ方向５カ所)

❸ ジョイントパーツをボックスセットに取り付け、フィラー材をカットする。



ボックスセット側板内側の貫通システム穴からジョイントパーツのV溝部分にビスとワッシャーで固定。
貫通システム穴・高さ方向5カ所を固定。フィラー材を5mmピッチのV溝にそってカッターかハサミでカット。

❹ フィラー材をフィラー見切材に差し込む。
ジョイントパーツに取り付けたフィラー受に差し込み完成。

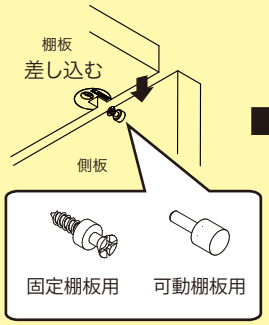


「完全間仕切り」から「家具置き」へ戻す場合などは、すべてこの手順の逆で行なってください。

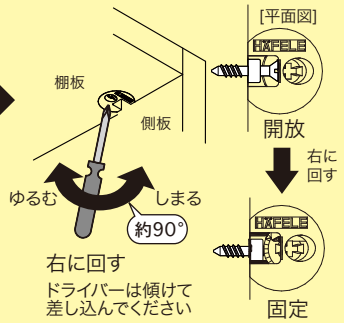
オプションパーツの取付方法

1 固定棚板・可動棚板の取付方法

棚板を取り付けたい位置のシステム穴にジョイント金具シャフトを取付後、棚板をのせ金具を固定します。



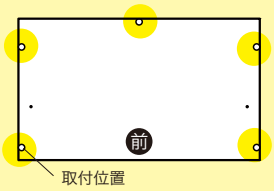
固定棚板の場合 =しめて固定



ご注意

固定棚板と可動棚板ではジョイント金具シャフトが異なります。各棚板用の金具を、1枚当たり5カ所に取り付けてください。

[固定・可動棚板 裏面上面図]



可動棚板の場合 =のせるだけ しめつけなし

ご注意

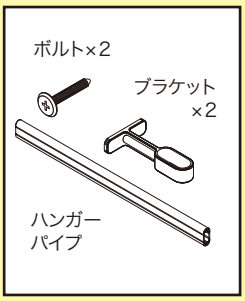
可動棚板を取り付ける際、必ず固定棚板を上下2カ所に設置してください。固定棚板がない状態で可動棚板を設置すると、製品の強度が弱くなる可能性があります。

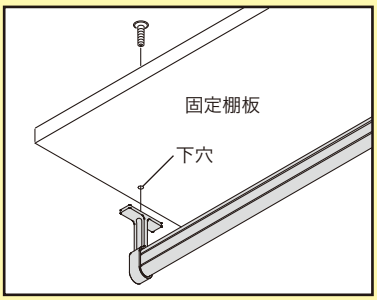
■この取付方法は、固定棚板・可動棚板の位置を変える場合や、オプションで棚板を追加する場合などにご活用ください。

2 ハンガーパイプの取付方法

1 セット内容を確認する。

2 棚板上部からボルトを下穴に通しブラケットを固定後、ハンガーパイプを取り付ける。
固定棚板を取り付ける。
（固定棚板の取付方法は左記を参照）

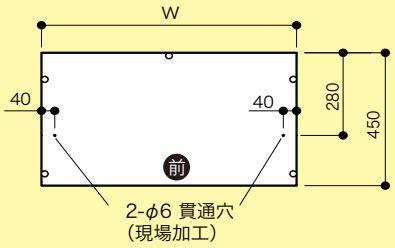




ご注意

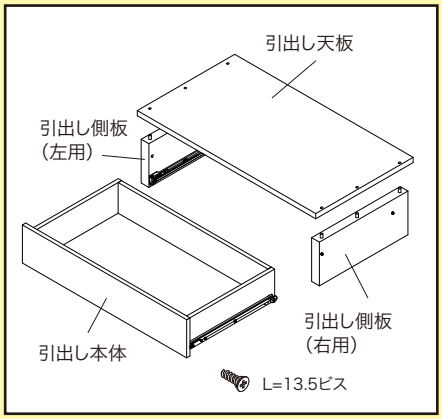
オプションでハンガーパイプを取り付ける場合

下記の位置にパイプブラケット装着用の貫通穴φ6mmを2カ所を現場加工する必要があります。

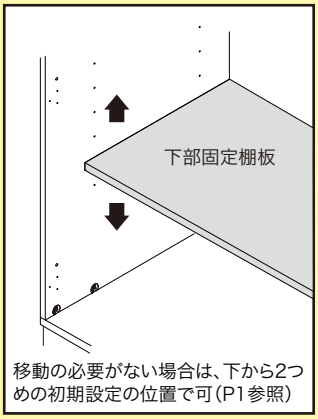


3 引出しの取付方法

1 引出しのセット内容を確認する。

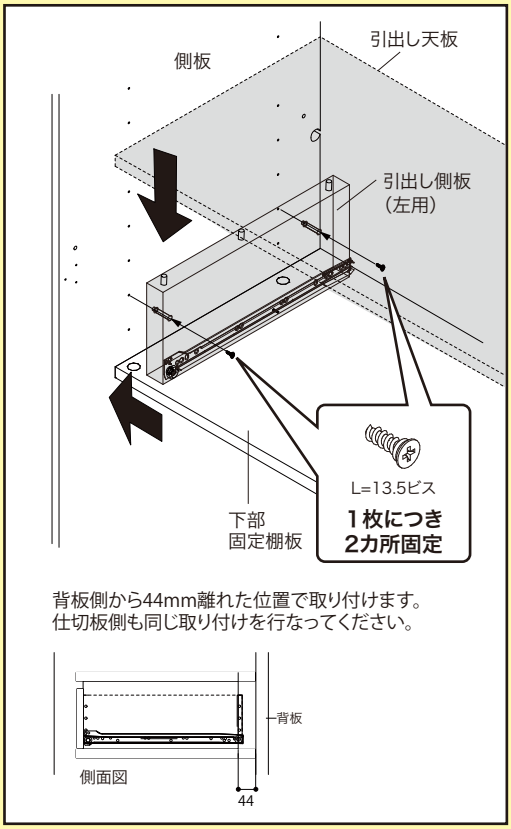


2 ボックスセットの下部固定棚板を必要に応じ上下に移動固定する。

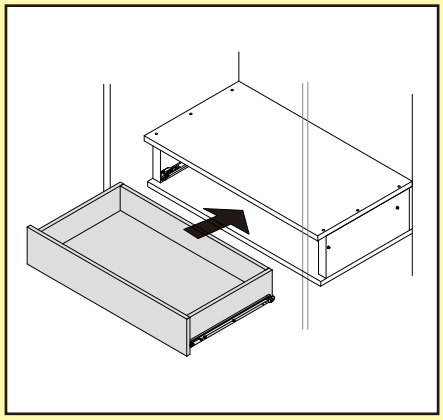


移動の必要がない場合は、下から2つめの初期設定の位置で可（P1参照）

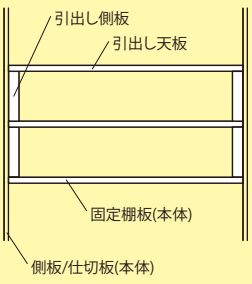
3 左右の引出し側板を下部固定棚板にのせ、ボックスセットの側板・仕切板のシステム穴に専用ビスを通し固定。
ダボに木工ボンドを塗布し引出し天板をのせ固定する。



4 引出し本体を引出し側板のレールにそって挿入しセットアップする。



引出しを2段で取り付ける場合も同じ要領で取り付けを行なってください。



■この取付方法は引出しの位置を変える場合や、オプションで引出しを追加する場合などにもご活用ください。

取扱説明書

■ご使用になる前に必ずこの「取扱説明書」をご一読いただきますよう、お願いいたします。
間違った取り扱いを行ないますと製品の品質劣化や人への損傷につながる可能性があります。本書にそわず取り扱いを行なった場合については、当社での保証はしかねますのでご注意ください。
特に「安全上のご注意」は、ご使用前に必ずお読みいただき、安全にお使いください。
■お読みになったあとは、大切に保管し必要な時にお読みください。

警告表示の種類と内容

人身事故や財産の損害を未然に防止するために、製品の取り扱いについて次のような警告表示をしています。
内容をご理解のうえ、正しく安全にお使いください。

誤った取り扱いをした場合に生じる危険とその程度を、次のレベルで説明しています。

⚠注意　**この表示を無視して誤った取り扱いを行なうと使用者などが傷害（※1）を負うことが想定されるか、物的損害（※2）の発生が想定される危害・損害の程度を示す。**

（※1）傷害とは、治療に入院や長期の通院を要さない、ケガ・やけど・感電などをさす。
（※2）物的傷害とは、家屋・家財および家畜・ペットなどに関わる拡大損害をさす。

本文中に使われている図記号の意味は、次のとおりです。

⃠	「してはいけない」を示します。
❗	「必ず行なっていただくこと」を示します。

安全上のご注意

⚠注意

⃠

● 製品にのったり、ぶら下がったりしない。
扉や棚板・引出し・ハンガーパイプなどにのったり、ぶらさがったりしないでください。破損・落下・転倒して、ケガをするおそれがあります。

● 丁番などの可動部には手を入れない。
丁番などの可動部には手を入れないでください。手をはさんでケガをするおそれがあります。特に小さなお子様には充分ご注意ください。

● 移動時は充分に安全を確認する。
はさまれたり、ぶつかったりしてケガをするおそれがあります。充分にご注意ください。また天井・床・壁などをキズつけないようご注意ください。
特寸サイズで本体の高さが低く、下部がフェルト仕様の製品は本体転倒のおそれがあります。ケガには充分ご注意ください。

❗

● 扉・引出しの開閉は静かに行なう。
扉や引出しの開閉は静かに行なってください。扉や引出しが破損・落下し、ケガをするおそれがあります。

● 耐荷重の目安値よりも重たいものをのせない。
重量物をのせると棚板・引出しが変形・破損・落下し、ケガをするおそれがあります。下記の「耐荷重の目安値」をご参照ください。

ご使用上のお願い

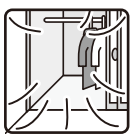
● 直接に水をかけない。
表面化粧のはがれや反りの原因となります。

● 粘着テープ（養生テープ・セロハンテープ・シール等）は貼らない。
表面に粘着跡がのこるおそれがあります。

● 油やインクの付着に注意する。
水・油・インク・薬品などが付着した場合はすぐに拭き取ってください。放置するとシミや変色の原因となります。

お手入れ

● 日常のお手入れ方法
乾いた柔らかい布で乾拭きする。
● 汚れがひどい場合
中性洗剤を水で薄めたものを布にしみ込ませ、堅く絞って拭き取り、よく乾燥させる。



● 換気をする
収納内部には湿気がこもりがちになり、結露やカビの発生原因となるため、時々内部の収納物を出し、充分な換気を行なってください。

耐荷重の目安値

表記の数値は耐荷重値の目安であり、保証値ではありません。

1. ボックス全体の耐荷重目安値

■ボックス全体の収納総重量は下記の数値を超えないようにしてください。

定寸サイズ	耐荷重の目安値
3尺	**150kg** 以下
4.5尺	**250kg** 以下
6尺	**250kg** 以下

特寸サイズ	耐荷重の目安値
1.5尺	**75kg** 以下
3尺	**150kg** 以下
3尺メーター	**150kg** 以下
4.5尺	**250kg** 以下
6尺	**250kg** 以下

2. 収納パーツの耐荷重目安値

■各パーツの収納重量は、下記の数値を超えないようにしてください。
■収納量の総重量は「1. ボックス全体の耐荷重目安値」を超えないよう注意してご使用ください。

収納パーツ	耐荷重の目安値
可動棚板	**30kg** 以下
固定棚板	**50kg** 以下
パイプ付棚板	棚板上部＋ハンガーパイプ吊り下げ　合計 **50kg** 以下
引出し	1段あたり **10kg** 以下
ボックス底板	**50kg** 以下

安全のためにお守りいただきたいこと

耐震対策

台輪内のキャスターが、床から離れた状態の「固定状態」であることを必ず確認してください。
「可動状態」のままでの設置は避けてください。

その他の注意事項

■ボックスセットを移動する場合は、必ず中の収納物を出し、連結金具をはずしてから移動してください。
■ボックスセットは組立後、設置した部屋から出すことは困難になります。

建築基準法に基づくホルムアルデヒド発散等級

■製品名：可動間仕切り収納　ムーブ4
■製造者：南海プライウッド株式会社
■発散区分：F☆☆☆☆　■住宅部品表示ガイドラインによる
■ロット番号：製品梱包に記載
■構成材料：ユニットを構成する木質部材

内装仕上部分	
ホルムアルデヒド発散建築材料	発散区分
MDF	F☆☆☆☆
接着材	F☆☆☆☆

下地部分	
ホルムアルデヒド発散建築材料	発散区分
MDF	F☆☆☆☆
PB	F☆☆☆☆
接着材	F☆☆☆☆

お問い合わせ先：TEL(087)894-8025　品質保証グループ

NANKAI PLYWOOD
南海プライウッド株式会社
本社　〒760-0067　香川県高松市松福町1-15-10　http://www.nankaiplywood.co.jp

北海道・東北営業グループ　TEL(087)825-3632　FAX(087)825-3695
関東甲信越営業グループ　TEL(087)806-3660　FAX(087)825-3645
首都圏営業グループ　TEL(087)825-3621　FAX(087)825-3645
中部営業グループ　TEL(087)825-3622　FAX(087)825-3646
近畿営業グループ　TEL(087)825-3623　FAX(087)825-3647
中四国営業グループ　TEL(087)825-3624　FAX(087)825-3648
九州営業グループ　TEL(087)825-3625　FAX(087)825-3649
特需営業グループ　TEL(087)825-3662　FAX(087)825-3669
新規需要開拓グループ　TEL(087)825-3631　FAX(087)825-3659

SK-MVM1405-01 P